

いる印象です。この弱さが大阪の問題点です。オーケストラは、アメリカでは企業がメセナ、ヨーロッパでは国家が支えるという土壌が形成されていますが、日本ではあいまいです。関西フィルの財政は、主に公演等の売り上げと企業支援および一部、府の補助金で成り立っていますが、我々は自助努力も行っており、「①観客の支持、②関西広域での展開、③ブランド力と芸術性向上」を旗印に6か年計画を打ち立てています。そして苦しい財政の中、フランスの巨匠を音楽監督として招聘するなど新たな展開を進めています。オーケストラは、人のつながりを生む文化装置です。我々の夢も伝統芸能の方々と同じく関西の誇りを創出することです。

**帯野** 会場にお越しの来場者の方で、ご意見・質問はありますか？

**来場者(経済界)** 先ほど、企業はゼニ勘定で文化支援しているというご指摘がありました。企業が文化支援を行う際は、どうしても費用対効果をもとに協力を考えざるを得ません。無料化しないと集客できないこともあり、それも支援を困難にしています。

**南陵** 昔のタニマチには費用対効果という意識がなかったから、文化が育ったのです。

**来場者(経済界)** タニマチは個人ですが、企業は団体ですので、社内を納得させるのに費用対効果を論じなければなりません。経営者個人の独創性が生かせるよう説得力を高めていくべきだとは思っています。

**伊東** 私は市民の文化意識よりも、我々の発信力に問題があると思います。

**西濱** そうですね。市民云々より担い手の向上心が大切で、それを失えばアーティストとしての成長は止まります。大阪人は何でも値切ろうとしますが、値切れば人件費に跳ね返ります。人への投資は値切るべきではありません。楽団公演に220万円の経費がかかるとして、70人のトップ集団の演奏がA席8000円。これを安い高いか判断せずに値切るのが大阪人です。かつて私財を投じて関西フィルを支援していたある企業家に対して、周囲の視線は非常に冷ややかでした。志ある

寄付を小バカにする傾向が日本の社会にはあるんです。官は民まかせで民が出来なくなったら捨てるのではなく、官には制度を整備して支援する役割があるはず。官と民の役割が見えにくくなっています。

## 大阪版『ニュー・コンパクト』を考える

**帯野** 後半は基調講演で紹介された『ニュー・コンパクト』について、具体的に考えていきたいと思います。

**加藤** 『ニュー・コンパクト』は、経済状況が厳しい中、費用対効果ではない考え方でメセナに取り組めないかということで考案されました。疲弊した地域が、文化への集中投資によって再生を果たした別府アートプロジェクト等の例もあり、『ニュー・コンパクト』の大阪版を考えていきたいと思います。例えば『水都大阪2009』の『ラッキー・ドラゴン』は、作家のユニークな自己実現がなされているうえ、イベントとしても成功しています。同じように横浜開港イベントの『ラ・マシ』も好評でしたが、両者には違いがあります。というのは『ラ・マシ』は高い外国製品で、使用の際は道路幅等の条件に合わず、ノウハウが残らなかったのです。『ラッキー・ドラゴン』は作家自作で費用が安く、水路での使用条件も合致し、ノウハウも残ったのでタイに売れることもできま



加藤氏

した。企業メセナ協議会は07年に日本の文化芸術について10の提言をしています。その要点は、アートの「社会的役割を明確にする」こと。アートは社会再生の切り札であるという認識で「文化を振興するシステムを確立する」こと。提言の背景には、地域社会の疲弊があり、東アジアにおける日本の孤立があります。『ニュー・コンパクト』はその頃より社会情勢の悪化を踏まえ、文化への集中投資による地域再生を提言しています。社会の構造変化に対して、経済振興策だけでは対応できません。市民自治とセクター、地域間ネットワークを推進することで、コンパクトな社会・経済という新たな地域社会像を提案したいと思います。コンパクト経済とは「製造販売の一体化」「小規模経営の維持」「地産地消を中心に置く」「Face to Faceによる顧客管理」によるもので、徒歩圏内での社会充足をさせようというものです。ではなぜその手段がアートなのかというと、圧倒的なヴィジョンの喚起力があり、教育・環境・福祉等すべての人の営みに関わるからです。ここでいうアートは、ハイカルチャー一辺倒ではありません。「アートはエライ」的な発想は、市民から文化を離脱させてしまう。多様性を容認し、ユーモアを大事にしたのがアート。例えば祭りもアートと地域創造が結合した究極のコミュニティ・アートです。一つずつが手作りで非生産的なアートは費用対効果とは対極にある活動ですが、人を繋ぎ、外から人を呼び込むきっかけになります。**帯野** 府民の意識調査では8割が「芸術文化は必要」と答えているのに集客は



第3分科会